

研究結果

本研究は有田における陶磁器産業の現状を調査し、そこにおける重要無形文化財保持者（および団体）、伝統工芸士の生産と芸術、教育活動を概観し、伝統工芸の生態を描き出そうとした。

実地調査にもとづいて、下記の結論に達した。

1、有田はいわゆる「オブジェ」に走らず、日用品を中心に伝統を踏まえた新製品を作り上げ続け、焼き物の中心地としての地位を維持できている。

2、中央と地方政府の政策——伝統工芸士資格制度、人間国宝の指定および伝統産業に対する金融的な支援策などは焼き物関係者のために比較的良好な環境（中国の竜泉と越窯に比べて）を形成している。特に人材の育成プログラムの豊富さと個人負担コストの低さが注目すべきものである。

3、関係者は団体あるいは個人という形で、芸術家としてのオリジナリティーを示す一方、教育機関の維持、マーケットの創出にも積極的に関わっている。さらに業界団体を通して、国および地方の政策に対しても影響を及ぼす力を持っている。たとえば十四代柿右衛門先生は窯業大学の学長をかねながら、学生に自家の窯で実習させるチャンスを提供してくれる。商工会議所は新規商品の売り出し、宣伝に協力するなど。

4、個人と企業（主に中小企業）はそれぞれの行き方で有田という町の活性化にかかわっている。有田では芸術家が日常品の製作にかかわり、伝統工芸士も芸術品を作り出している。彼らがいるからこそ、中小企業はこれまでの小規模商社という流通ルートのほかに、展示即売会、見本市など資格あるいは名誉に基づかれた販売ルートが成立できた。

このような個人と団体、地方と中央、教育と金融などの連携があってはじめて、「人・もの・かね」が有効に生かされ、技術の進歩が早く、ロボットも数多く使用される陶磁器産業において、有田は伝統工芸を守ることができたといえよう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

題名：日本における伝統工芸の生態 —— 磁都有田について

発表者：黄栄光

会議名：非物質文化遺産・東呉フォーラム及び中国の大学における文化遺産学学科形成シンポジウム

日時：2009年5月8－9日

場所：蘇州大学芸術学院大ホール

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

題名：日本における伝統工芸の生態 —— 有田の陶磁器産業に対する調査と分析に基づいて

発表者名：黄栄光

論文掲載誌：蘇州大学非物質文化遺産研究センター 編『東呉文化遺産』 第3輯 pp297－316 上海三聯書店

掲載時期 2010年5月

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）